

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
事業コード		事務事業名	入所者の生活、指導・介助事業	
根拠法令等	老人福祉法		A法令	

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉

### ②事務事業の内容

対象	養護老人ホームの
手段	生活の指導や介助事業を行なうことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる環境作りの提供をする。

### ③事業の概要

項目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
延入所者数 (毎月入所者×12月)	449人 37人内訳 (市内29人) (市外 8人)	420人 35人内訳 (市内27人) (市外 8人)	480人 40人内訳 (市内31人) (市外 9人)

### ④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	入所充足率	
成果指標の説明	延入所者数/延定員 (600人)	

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般 会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	-	-	80.0%
	実績	74.8%	70.0%	-
成果指標 ②	計画			
	実績			
事業費	事業費	5,402	6,087	6,462
	人件費	48,702	48,216	49,680
	(人数)	6.0	6.0	6.0
	合計	54,104	54,303	56,142
財源内訳	国	12,824	11,133	0
	県	479	479	479
	市債	0	0	0
	その他	9,551	7,893	11,244
	一般財源	31,250	34,798	44,419

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	2	定員50名の施設であるが、すでに築34年を経過している居室他の設備等の現状を考慮して予算措置は40人で要求している。当初定員より入所充足率は低下しているが、高齢化による認知身体不自由者の増加で生活介助等日々の生活を快適に暮らせるよう工夫努力してきた。
経済効率性	2	2	国基準の措置費の範囲内で、入所者の生活に必要な費用を効率よく配分した。
事務効率性	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づいているが、入所者の高齢化・病弱化により、一層の介助と手間が掛かるようになった。
必要性	2	3	最近、入所理由の中に経済的困難な高齢者が非常に多くなってきている。国の基準に基づいて職員の配置運営すると、経費面で困難が生じているため、運営面での今後の検討が必要である。
小計	9 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	入所者の高齢化・病弱化により、手間がかかるようになっている。市民のボランティア・慰問者等の協力により、清掃・洗濯・繕い物奉仕で手助けを受けている。
合計	11 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	今後とも、入所者へのより充実した介助・生活指導に引き続き努力を重ねていきたい。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員と寮母との意思の疎通を図る意味で、毎月1回指導員・寮母検討会を開き、入所者への処遇について改善を求めてきた。</li> <li>・車椅子生活の人が生じたため、臨時のスロープを作り、移動がスムーズに行くように改善をした。</li> <li>・入所者による衣服の買い物に、従来1日で行ったのを、4日間の日程を検討したため各自ゆとりある買い物ができるようになった。</li> </ul>
---

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者が全体的に高齢化・病弱化しているが、生活・指導・介助を合理的に行ない、極力予算の範囲内で現行の人員で対処できるようにしていきたい。</li> <li>・弱者のためにバリアフリー化をすることにより、より一層快適な生活ができるよう整備をしたい。</li> <li>・3人部屋をベッド部屋（2人）にすることにより、余裕を持った部屋に改善していきたい。</li> </ul>
--

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
----	-------	---------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の給食・栄養事業
根拠法令等		老人福祉法	A法令

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉

### ②事務事業の内容

対象	養護老人ホームの
手段	入所者に食事のサービスを提供する事によって、
想定する成果	入所者に喜ばれる食事の場を提供する。

### ③事業の概要

項目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
1日1人当たり平均単価	1,006円	1,044円	998円
国の示している生活費の1/2単価	870円	932円	841円
1日平均入所者数	36人	34人	40人

### ④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	国が示している単価達成度	
成果指標の説明	1日1人当たりの平均単価/国が示している単価×100	

### ⑤事業の進捗状況

( 一般会計 )

(千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	-	-	118.6%
	実績	115.6%	112.0%	-
成果指標 ②	計画			
	実績			
事業費	事業費	27,792	27,608	29,828
	人件費	8,117	8,036	8,280
	(人数)	1.0	1.0	1.0
	合計	35,909	35,644	38,108
財源内訳	国	8,864	7,696	0
	県	331	331	331
	市債	0	0	0
	その他	6,602	5,456	7,772
	一般財源	20,112	22,161	30,005

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	日常生活の中で食事によせる関心が非常に高いため各自の健康保持食欲増進と合せ、食べる事の楽しみを十分尊重し栄養バランスの取れた献立作り励んできた。
経済効率性	3	3	国基準の措置費の範囲内で賄費の使用削減を図りつつ豊かな食生活づくりに励んだ。
事務効率性	2	2	自分で選ぶことのできる楽しみをつくるため複数献立と食事の選択性の取り組みを検討してきたが、高齢化による痴呆等を含み聴取に時間を要したり、食事に選択メニューを忘れたりすべての満足度を得る事の難しさを実感した。
必要性	3	3	食べることは、利用者の大きな楽しみであり施設生活の大きな位置を占めている。老年期の栄養管理を踏まえつつ、食事サービスを通して利用者の生活を支えていくためにも必要である。
小計	10 / 12 満点中	10 / 12 満点中	
市民参加度	1	1	花見の会により、入所者の身元引受人・ボランティア等を通じて食事に関する生の声を聞いている。
合計	11 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	献立の内容も多様化を求められ、高齢による病弱化も増加中。通常の食事が不可能な治療食も必要となっているが、老年期の栄養管理又充実した老後の健康食生活のあり方を大きくとらえ、個々のコミュニケーションを大切に、年1回以上の嗜好調査を実施し入所者の要望等を聞き取り献立改善に反映させた。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食関係納入業者に対して給食納入時に関する注意、各材料の新鮮度合等、衛生管理面等の啓蒙を続け衛生知識の把握を呼びかけている。</li> <li>・非常災害時発生に対する対処として、非常災害時の食事方法、非常食品の管理の見直しをしてきた。</li> <li>・食事提供する側において、種々の課題を給食委員会や職員のミーティングで検討し入所者に豊かで質の高い食事ができるよう食生活の改善に努力してきた。</li> <li>・食堂からの調理室への、はえ・そ族昆虫侵入防止のため網戸を設置した。</li> <li>・給食納入材料検取場に納入材料専用の移動台を設置し、給食材料の衛生管理面を徹底してきた。</li> </ul>
--

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理室内の高温多湿対策を検討し、室内の天井に換気扇を設置し室内の環境整備を図りたい。</li> <li>・調理室内の水道配管（天井設置）の清掃及び修理。</li> </ul>
---

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
----	-------	-------------	-----	------

事業コード		事務事業名	施設の管理・事務事業
根拠法令等	老人福祉法		A法令

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢者福祉

### ②事務事業の内容

対 象	養護老人ホームの
手 段	施設の管理や事務事業を行うことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる場の提供をする。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
延入所者数 (入退所人員)	449人 (入所2人・退所3人)	420人 (入所2人・退所8人)	480人

### ④成果指標

成果指標名	入所充足率	②
成果指標の説明	延入所者数/延定員(600人)	

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般 会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	-	-	80.0%
	実績	74.8%	70.0%	-
成果指標 ②	計画			
	実績			
事業費	事業費	8,784	6,260	9,942
	人件費	4,058	4,018	12,340
	(人数)	0.5	0.5	1.5
	合計	12,842	10,278	22,282
財源内訳	国	3,456	3,001	0
	県	129	129	129
	市債	0	0	0
	その他	2,574	2,127	3,030
	一般財源	6,683	5,021	19,123

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	施設の老朽化が目立ってきている。快適な日常生活が続けられるよう改善・修繕を行ってきている。
経済効率性	2	2	国基準の措置費の範囲内で効率よく予算配分し、快適な日常生活が過ごせるよう努力してきた。
事務効率性	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づきは配置しているが、事務は複雑化傾向にあり多忙となってきた。
必要性	1	2	高齢者福祉における社会的援助が必要な人への位置づけをしている。養護老人ホームとしてこれからの役割、機能的な利点を検討していくために必要性がある。
小計	7 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	1	2	慰問・ボランティア・奉仕に来てくれる人から、生の声を聞いたり近隣施設の行事に進んで参加し各情報収集に努めている。
合計	8 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	養護老人ホームは昭和46年開所（34年経過）し老朽化が進み建替えの時期をむかえている。入所者が生きがいを持ちプライバシーの保護をしていくためにも、蒲郡市総合計画の施策を進めつつゆったりとくつろげる施設づくりを視野に加え検討整備していきたいと考える。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

<ul style="list-style-type: none"> <li>入所者の高齢化・心身虚弱化に対応するためトイレに洋便器を追加した。</li> <li>食堂兼集会室の情報伝達であるテレビが、古く見にくくなったので新しく更新した。</li> </ul>
---

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> <li>風呂場にエアコン、食堂兼集会室の扇風機を大型化し快適な生活を送るよう整備していきたい。</li> <li>入所者の転倒や骨折防止のため、入浴場にスロープ・手すりの取り付け、又静養室への冷暖房施設の設置等高齢者が安全安心して生活できるよう生活環境を重視した整備を図っていきたい。</li> <li>入所者の高齢化により、トイレをバリアフリー化することで、一々履物を履き替えなくてもトイレに行けるようにする。また、洗面所の蛇口を自動化し入所者の利便と節水の強化を図りたい。</li> </ul>
--

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
----	-------	---------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の看護・保健衛生事業
根拠法令等		老人福祉法	A法令

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉

### ②事務事業の内容

対象	養護老人ホームの
手段	入所者一人ひとりの健康を損なわないよう、過ごしやすい生活環境を整えていくことにより
想定する成果	一人ひとりの体力を把握し、個人にあった健康づくり、衛生管理面を習得させる。

### ③事業の概要

項目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
通院者数	1,020人	1,092人	1,160人
延入所者数	449人	420人	480人

### ④成果指標

成果指標名	入所者受診率	②
成果指標の説明	延通院者数／延入所者数	

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	-	-	2.20
	実績	2.27	2.60	-
成果指標 ②	計画			
	実績			
事業費	事業費	6,523	6,962	6,703
	人件費	4,058	4,018	4,140
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	10,581	10,980	10,843
財源内訳	国	2,486	2,159	0
	県	94	92	92
	市債	0	0	0
	その他	1,852	1,530	2,180
	一般財源	6,149	7,199	8,571

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	入所者の健康状態を把握し、病弱者の早期発見に努め病弱者の介助・看護に努めた。
経済効率性	2	2	保健衛生面による施設内の環境作り、各管理棟の清掃等入所者が参加し保健予防及びそれらに係る経費の有効支出に努めた。
事務効率性	2	2	看護師と寮母との業務調整を図ることにより、介助・通院者の付添い手助け等スムーズに運ぶことができた。
必要性	2	2	高齢・病弱化しているため看護・介助する手間が増加してきている。個々の健康状態を把握し早期発見に努めることが必要である。
小計	8 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	1	1	奉仕による眼科・歯科検診、身体が健全に生活できるよう、ボランティアの慰問協力を得ている。又、嘱託医を民間医師に委託しているため、医師所属の病院との親交・交流が深まっている。
合計	9 / 15 満点中	9 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	要介護者・有病者の増加に伴い、看護師の指示により、特に病気については適切な予防や対策に、一層の注意をもって対応するように努めた。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

<p>段差のない居室等出入口、便器の和式から洋式への切替えの洋便座の設置、入所者の疾病の早期発見のため健康診断の充実、保健衛生に係る備品の充実に努めてきた。</p>
--

⑧今後改善すべき点

<p>高齢に伴う認知症、身体的不自由者の身体機能低下、病弱化が顕著になっている。このため身体的に安静できる環境整備を検討工夫していきたい。</p>
---

⑨平成18年度予算に反映する項目

<p>入所者が安心して生活ができる環境整備、食堂・居室等の整備娯楽施設の充実を検討していきたい。</p>
--

⑩組織、人員に関する提言

<p>・現在、看護師は非常勤職員である。入所者の健康状態の把握、病弱者の早期発見、緊急時の対応や処置を適格に行なうためにも、看護師の業務を正規職員の配属を希望していきたい。</p>
--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載